

Baptist Church の日本語表記の変遷

松岡正樹

はじめに

日本最初のバプテスト教会は、1873（明治6）年3月2日に設立された First Baptist Church of Yokohama（現日本バプテスト横浜教会）であることはよく知られている。当初は日本人信徒がいなかったため、Baptist Church とそのまま呼ばれていたと考えられるが、日本人が集うようになると日本語での表記が必要になってきたと思われる。今まで、その日本語表記は「横浜第一浸礼教会」とされてきた。これは、高橋楯雄（1871-1945）が編集した最初の日本バプテスト通史である『日本バプテスト史略』¹（以下「史略」と略す）において、Baptist Church をほぼ全て「浸礼教会」と表記したことによると考えられる²。しかし、『史略』自体に「神戸に在る浸教會（當初は主としてしづめ教會と云へり）」³との記述があり、また、渡部元（1877-1958）が「我がバプテスト教會は、最初しづめ（沈又は浸）教會或はバプテスマ教會と稱した」⁴と記しているように、当初から「浸礼教会」との表記ではなかったことが明らかになってきた。そこで、数少ない史料を用いてではあるが、Baptist Church の日本語表記の変遷を日本基督教団（以下「教団」と略す）に加わるまでの時期について検討したい。

1 浸（しづめ）教会

バプテスト派の中国伝道は、1842年に南京条約が締結された後、本格的に始められた⁵。中国でアメリカバプテスト宣教師同盟（American Baptist Missionary Union、以下「ABMU」と略す）は、「浸禮会（大美国浸禮会真神堂）」と表記されていた⁶。中国の事例からすれば、漢字文化圏にある日本においても「浸礼教会」と当初から表記してもよいのであるが、「浸教会」とされた。この理由を考察するためには、日本におけるバプテスト派の聖書和訳事業について述べなければならぬ。

日本国内初の聖書『摩太福音書』を刊行したジョナサン・ゴープル Jonathan Goble（1827-96）、

¹ 上下二巻があり、上巻は日本バプテスト開教五十年記念として大正12年5月に東京三崎会館から発行されたが、関東大震災で在庫が焼失し、現存数が少ない。下巻は、昭和3年12月に東部バプテスト組合から発行。

² 『史略』の記述は1899（明治32）年までであり、この時代に一般的であった「浸礼教会」で表記を統一したと考えられる。

³ 『史略』上、102頁。

⁴ 渡部元「名称の由来」『基督教報』第730号、大正13年1月25日。

⁵ Robert G. Torbet, *Venture of Faith: The Story of the American Baptist Foreign Mission Society and the Woman's American Baptist Foreign Mission Society 1814-1954*. Philadelphia: Judson Press, 1955, p.289.

⁶ 小澤三郎『幕末明治耶蘇教史研究』日本基督教団出版局、1973年、374頁。

その事業を引き継いだネイサン・ブラウン Nathan Brown (1807-86) 両宣教師が聖書訳を進めるに当たっては、1850年に設立されたアメリカバプテスト派の団体である American Bible Union の方針に従っていた。その方針とは、最新の本文批評によって校訂したギリシア語原典から、明瞭正確な日常語によって翻訳を行うことであった。つまり、二人の宣教師が目指したものは、平易な言葉によって庶民階層にも読むことができる翻訳であった。そのため、漢字を用いず平仮名だけで表記を行ったのである⁷。

以上のことから、当初「浸礼教会」ではなく「浸教会」と表記をしたのは、漢語の「浸礼」ではなく日常語の「浸（しづめ）」を教会の名称に用いることで、広く庶民階層にも福音を伝えようとの思いを示そうとしたと考えられるのである。

なお「（しづめ）」は、N・ブラウンのギリシア語 ‘βαπτισμα’ baptisma の訳語「しづめ」に由来する。ゴープルは baptisma を「ひたし」と訳している。ブラウンが「しづめ」を採用したのは、baptisma が持っている「死」との関連を示すには、「ひたし」よりも「しづめ」がよりふさわしいと判断したためと考えられる。

それでは、「浸教会」と称していた事例が実際にあったのか検証する。

1886(明治19)年の「日本全国基督教会表」⁸に掲載されている12のバプテスト教会を名称の種類毎に列記する。

「浸教会」 2 教会

東京第一浸教会 神戸浸教会

「浸礼教会」 7 教会

本所浸礼教会 八王子浸礼教会 栃木浸礼教会 仙台浸礼教会 盛岡浸礼教会 八戸浸礼教会 磐城平〔浸礼〕教会⁹

「バプテスト教会」¹⁰ 3 教会

横浜第一バプテスト教会 高座第一〔長後〕バプテスト教会 高座第二〔上溝〕バプテスト教会

1886年当時においても二つの教会が「浸教会」としていたことが判る。

横浜教会が「浸教会」と称していたことは、今のところ文献上では確認できていないが、横浜

7 川島二郎『ジョナサン・ゴープル訳「摩太福音書」の研究』明石書店、1993年、34-39頁。

8 『基督教新聞』第195号附録、明治20年4月20日。

9 「日本全国基督教会表」は「磐城平教会」と表記しているが、当時の『基督教新聞』に「磐城平第一浸礼教会」、「平浸礼教会」などの名称で記事が掲載されており、「浸礼」が付されていたと判断した。

10 「日本全国基督教会表」は「バプテスト教会」と表記している。「バプテスト」は、他教派などでよく用いられているが、バプテスト派内でそのように表記することはほとんどないので、「バプテスト」とした。

教会から独立して 1876 (明治 9) 年に J・H・アーサー James Hope Arthur (1842-77) によって設立された日本で二番目のバプテスト教会は、東京第一浸教会 (現教団三崎町教会) と名付けられたことから、「横浜第一浸教会」とされていた可能性は高いと思われる。

なお、東京第一教会は 1889 (明治 22) 年の『東京第一浸教會信徒宿屬姓名簿』が現存していることから¹¹、この年までは「浸教会」と称していたことが確認できる。

神戸浸教会 (現教団神戸聖愛教会) は、1882 (明治 15) 年に H・H・リース Henry Holcombe Rhees (1828-99) によって東京第一浸教会から独立して設立され、西日本の拠点教会となった。リースは 1893 (明治 26) 年頃に出版した信仰問答書を『浸教會問答 (しづめきょうくわいもんだう)』と名づけ、翌年に改訂版を出しているので、1894 (明治 27) 年までは「浸教会」と称していたことが確認できる。

なお、渡部元が言及している「沈教会」と表記した事例は、現在のところ未見である。F・G・ハリントン Frederick G. Harrington (1855-1918) が改訳し 1900 (明治 33) 年に出版された標準版『引照新約全書』において、今までの baptisma の訳語「浸め」を「沈め」と変更しているので¹²、この影響を受けて「沈教会」と称した教会があった可能性もあるが、推測の域を出ない。

2 浸礼 (しんれい) 教会

「浸礼」が中国での ABMU の名称に由来することは既に言及した。この名称の確認できる最古の使用例は、1875 (明治 8) 年か翌年に出版とされる J・H・アーサー翻訳の信仰問答集『浸禮教會問答全』¹³である。実際にいつから「浸礼教会」と称する教会が出てきたのかを明確に示す史料は未見である。

先に、N・ブラウンが平仮名表記の聖書刊行に取り組んだことを述べたが、それとは異なる動きも出てきた。英国バプテスト宣教師 W・J・ホワイト William John White (1848-1901) は、自分が牧する本所教会員の平仮名聖書に対する批判を ABMU に送り、知識層向けの漢字交り表記にするように進言し、1882 (明治 15) 年に N・ブラウンから二年後にマタイ、マルコの試訳 (改表記) 本を発行する許可を受けた¹⁴。このことは知識層への伝道を重視していく流れを示しており、次第に中国に由来する「浸礼教会」の名称が採用されていったと考えられる。

「浸礼教会」の使用が広まってきた時に、その名称についての議論が日本浸礼教会組合総会 (以下「組合総会」と略す) で行われた。1908 (明治 41) 年 5 月の第 9 回組合総会で次のように審議

¹¹ 教団三崎町教会所蔵。

¹² 川島第二郎『日本バプテスト横浜教会創立 125 周年記念 N・ブラウン聖書展示会・解説文 (2) N・ブラウン没後のブラウン聖書の変遷』1999 年、7-10 頁。

¹³ 川島第二郎「よこはま＝バイブル＝プレス出版目録」(横浜市中心図書館開館記念誌編集委員会編『横浜の本と文化 別冊』横浜市中心図書館、平成 6 年) 52 頁。この信仰問答集は、その内容からアメリカの子供用カテキズム等から翻訳したと推定できるが、原本は不明である。

¹⁴ 川島第二郎「N・ブラウン没後の日本バプテスト聖書の変遷とその背景」(日本バプテスト同盟宣教研修所『宣教』第 15 号、1992 年) 35 頁。

された¹⁵。

◎第九號議案 我派教會名稱に基督の二字を加ふべき件

提出者 小畑 貞家君

(理由) 單に浸禮教會とのみにては、其何の宗教たるかを明示せず。

依て之に基督の二字を加へて、何々浸禮基督教會と仕度し。

意見區々、大體三つに別れ、一は名稱は慣用を便とすとの説、一は其意義上バプテスト教會とする説今一は原案維持説なり。結局宿題として各自考究し、來年改めて議する事となる。

翌年 5 月の第 10 回組合總會で続いて次のように審議された¹⁶。

◎第四號議案 我派教會名稱に基督の二字を加ふべき件

提出者 (前年度の宿題)

(理由) 該議案は客年の總會に於て討議せられ、意見三つに分れ、一は名稱は慣用を便とする説、一は其意義上バプテスト教會とする説、今一は原案維持にして何々浸禮基督教會とする説となり、本議會まで宿題となりしものなり。繼續審議を望む
討議の末大多數を以て原案を破毀し左の如く決す。

○決議 單に「何々浸禮教會」と稱すべし

「浸礼教会」と稱する組合總會決議がなされたが、バプテスト派の各個教会主義によって実際には統一した表記はなされなかった。1912 (明治 45) 年の「バプテスト組合加盟諸教會講義所及び教役者一覽」¹⁷によると、「浸礼教会」と表記しているのは 23 教会、「浸礼基督教会」は 5 教会 (東北部会内のみ)、「バプテスト教会」は 11 教会 (中央教会¹⁸と西南部会全教会)、「バプテストマ教会」は 1 教会 (川崎教会)、その他 1 教会 (インマヌエル教会¹⁹) となっている。地域ごとに表記が分れている様子がうかがえる。

3 バプテストマ教会

「バプテストマ」はギリシア語 baptisma の訳語であるが、この表記が委員会訳聖書に採用されるまでには、長い議論が続けられた。各派代表者からなる聖書翻訳委員会が 1874 (明治 7) 年 3

¹⁵ 『第九回日本浸禮派教會組合總會議事録』(1908.5.27-28) 19-20 頁。

¹⁶ 『第十回日本浸禮教會組合總會議事録』(1909.5.6-8) 15 頁。

¹⁷ 『第拾參回日本浸禮教會組合總會記録』(1912.6.5-6) 42-55 頁。

¹⁸ 中央バプテスト教会。現在の教団三崎町教会。

¹⁹ 現教団四谷新生教会の源流の一つ。教団創立後は、春日町教会と称した。

月 25 日に組織され、N・ブラウンも二日後 27 日の委員会から参加をした²⁰。バプテスト派以外の各委員は、baptisma の訳語として「洗礼」を用いていた。しかし、バプテスト派は幼児（嬰兒）のバプテスマを認めず、その方式も滴礼ではなく浸めのバプテスマを採用している。また、baptisma の意味は、「洗う」ということではなく「水の中に埋められること」を意味する。そこで N・ブラウンは、同年 7 月 27 日に委員会の席上、baptisma の訳語を「洗礼」とすることの誤りを記述した論文を朗読し、いわゆる「浸め問題」が起こったのである²¹。議論は続けられたが、N・ブラウンも各派共同訳であることを考慮して、baptisma の訳語として「浸め」を最後まで主張しなかった。そこで、聖書翻訳委員会は、日本在住の全プロテスタント宣教師にたいして、「洗礼」と「バプテスマ」のどちらを採用するか投票を求めることを、1875（明治 8）年 1 月 12 日に決定した²²。その投票の結果は、同年 3 月 8 日の委員会で公表され、「バプテスマ」に賛成が 30 人、「洗礼」に賛成が 16 人、回答無しが 9 人であった。N・ブラウンは「バプテスマ」に投票した²³。N・ブラウンはその後も委員として協力したが、翌年 1 月に自派訳聖書翻訳に専念するため辞任した²⁴。

「バプテスマ」が委員会訳新約聖書に採用されたことから、次第に世に知られるようになり、「バプテスマ教会」が採用されていったものと推測できるが、詳細は不明である。「バプテスマ教会」の事例も、「浸教会」と同様に確認できるのは僅かである。

根室教会（現根室キリスト教会）は、1888（明治 21）年 9 月 16 日の教会設立時に教会の名称を「根室第一バプテスマ教会」とした²⁵。また、門司教会（現日本バプテスト連盟・門司バプテスト教会）も、1893（明治 26）年 10 月 4 日の教会設立時に「門司バプテスマ教会」と称した²⁶。しかし、いずれも何時まで「バプテスマ教会」としていたのかは不明である。

川崎教会（現教団川崎教会）は、1911（明治 44）年 6 月までは「川崎バプテスマ教会」としており²⁷、第 16 回組合総会で教会名称を「バプテスト教会」に一定する議決がされるまで「バプテスマ教会」と表記した最後の教会であった。他に水戸教会（現教団水戸教会）も、時期は不詳であるが「水戸基督バプテスマ教会」と称していた²⁸。

この「バプテスマ教会」の名称を好んで使用していたのは N・ブラウン没後に横浜教会牧師となり、横浜バプテスト神学校初代校長となった A・A・ベンネット Albert Arnold Bennett（1849-1909）である。彼は、1894（明治 27）年に『バプテスマ教会 入會者必讀』を出版してい

²⁰ “Records of the Committee for the translation of the Bible into the Japanese Language.”（『聖書翻訳研究』No.23、日本聖書協会、1985 年）pp.9-12.

²¹ *ibid.*, p.21.

²² *ibid.*, p.37.

²³ *ibid.*, pp.48-49.

²⁴ *ibid.*, p68.

²⁵ 『史略』上、158 頁。

²⁶ 『史略』下、63 頁。

²⁷ 『教報』第 231 号、明治 44 年 6 月 20 日。

²⁸ 『第十二回日本浸禮教會組合總會記録』（1911.6.15-16）18 頁。

る。また翌年には、久代外治との共訳『基督の生涯及時代』を「バプテスマ伝道会社」から出版している。このことから、横浜教会を始め、ベンネットに関係がある他の教会でも「バプテスマ教会」と称していたことも考えられる。

「バプテスマ教会」の使用事例を検討した結果、日本のバプテスト教会が始めにこの名を称していたとの渡部元の記述は、今のところ確証がない。

4 バプテスト教会

「浸礼教会」の名称が次第に多くの教会で使用されるようになったが、不都合なことが起こってきた。その事情を渡部元は「浸禮は或は之を神禮と書く人あり。甚だしきに至りては侵禮などゝ書く者さへあり。禮を重んずる予輩が、禮を侵すと言ふに至りては、寧ろ滑稽に類すと云ふべし」²⁹と記している。このような理由からか、1915（大正4）年6月の第16回組合総会では、教会名称を「何々バプテスト教会」と一定することが満場一致で可決された³⁰。

渡部元は「バプテスト」の表記に賛成する理由を、「バプテストと云ふ語は寧ろ世界的なり。浸禮と言へばとて、一般邦人には外國語と差したる區別あらず其の意の不明なる點に於ては、毫も變る事なし。如かず世界的用語を使用するの便なるを」³¹と述べている。「浸礼」がその音を聞く人に誤解を与えること、また、メソジスト派では既に「メソヂスト」というカタカナ表記が定着していたこと、「バプテスト」の表記も既に使用されていたこと、次第に Baptist の本来の意味が知られるようになったことなどにより、上記の決議がなされたと考えられる。この決議がなされた当初は、いくつかの教会は名称変更には難色をしめしていたが³²、その後次第に「バプテスト教会」で表記が統一されるようになった。

「バプテスト」使用例で確認できる最古の事例は、1877（明治10）年出版のアーサー訳『浸禮教會問答』³³で、本文冒頭「浸禮教會問答」の「浸禮」に「ばぶてすと」とルビが付されているものである。『浸禮教會問答』は、前述した『浸禮教會問答全』を改訂して、よこはま＝バイブル＝プレスから出版したもので、この印刷にはN・ブラウンが関わっていると考えられる。ブラウンは、Baptist の日本語表記を「バプテスト」と考えていたことが推測できる。

5 その後の変遷

第16回組合総会で教会名称を「何々バプテスト教会」に一定する議決以降、ほぼ表記が「バプテスト教会」で統一されたが、それはあくまで各個別教会がそのことを受け入れた結果であった。しかし、1940（昭和15）年1月4日に、日本バプテスト東部組合と日本バプテスト西部組合

²⁹ 渡部元「浸礼かバプテストか」（『基督教報』第397号、大正6年4月26日）。

³⁰ 『第十六回日本浸禮教會組合總會記録』（1915.6.9-10）30-31頁。

³¹ 渡部「浸礼かバプテストか」。

³² 『第十七回日本バプテスト教會組合總會記録』（1916.5.31-6.1）10頁。

³³ 川島「よこはま＝バイブル＝プレス出版目録」52頁。

が解散し、日本バプテスト基督教団が組織され³⁴、教会名称を「日本バプテスト何々基督教会」と改称することが可決された³⁵。この決議は、各教会が拒否をすることができない拘束力を持つものであった。この名称は、日本バプテスト基督教団も加わって日本基督教団が創立される 1941（昭和 16）年 6 月までの約 1 年半用いらただけで、同じ地域の他の教団所属教会と名称変更の調整が必要になった。教団の教会名称変更の方針は、次のように示されている³⁶。

- 1 各箇教會の名稱は派別を聯想せしむるが如き名稱及び外國名を避け成るべく地名を用ふること。
- 2 同一地名を冠する教會二箇以上あるときは、傳道開始の最も早き教會其の名稱を保有し、他は町名其の他の名稱を附すること。
- 3 場合によりては同一區名の下に町名を用ふるも可。例へば
牛込〇〇教會の如き。
- 4 右名稱變更に付き解決困難の場合は教區長の斡旋を得て之を解決すること。
- 5 「第一」「第二」とか、「中央」と云ふが如き、その土地に於ける優越的聯想を伴ふ名稱を出来るだけ避けること。

このため「バプテスト」の名称を用いることはもはや出来なくなった。再び「バプテスト」の名称が復活するのは、戦後に教団から離脱する教会が出てからのことであった。

おわりに

日本のバプテスト教会は、Baptist Church を「浸教会」、「浸礼教会」、「バプテスマ教会」、「バプテスト教会」と翻訳して用いてきた。最初は「浸教会」が用いられ、その後、時期ははっきりしないが「浸礼教会」、「バプテスマ教会」、「バプテスト教会」が用いられていった。そして、これらの名称を同時に複数使用していた教会もあったようである。それは次の 1911（明治 44）年の第 12 回組合総会の決議から知ることができる³⁷。

○第六號議案 教會の名稱を確定すべき件（常置委員提出）

（説明）從來本組合諸教會に於て往々確定したる名稱なきが如く、二様若しくは其以上に使用せらるゝ事取扱上甚だ不便に付、自今は確定の上如何なる場合にも變用せざらんことを望む。例へば本總會への委任状水戸浸禮教會の印章には水戸基督バプテスマ教會とあり、平浸禮基督教會の印章には磐城平浸禮教會とあるが如し。

³⁴ 『日本バプテスト基督教団組織總會記録』（1940.1.3-5）6-10 頁。

³⁵ 同上、20-21 頁。

³⁶ 『教団時報』第 209 号、昭和 16 年 9 月 15 日。

³⁷ 『第十二回日本浸禮教會組合總會記録』18 頁。

(決議) 原案可決

(常置委員曰く速に御確定の上報告あらんことを望む)

このことは、日本におけるバプテスト派伝道初期の苦労を物語っている。教会名称は、個々の教会の信仰理解、伝道方針を表すものであり、的確に意味が理解できるものでなければならない。そのため、Baptist Church という外来の言葉を翻訳するときに苦労しながら、当初はバプテスト派の外形的特徴である、浸めのバプテスマを意味する言葉として翻訳を行った。これは、当時の日本人には Baptist 本来の意味を正確に理解できるだけの素地がなく、浸めのバプテスマを示す教会名によって他教派との区別を示すことが、まず採用されたと考えられ、この流れにある名称が、「浸教会」、「浸礼教会」、「バプテスマ教会」である。

しかし、次第にバプテスト教会の特徴が浸めのバプテスマだけではないことの理解が深まってきた。それは、いわゆる「バプテスト主義」³⁸が次第に浸透した結果であろう。このような意味を含む Baptist を、一つの熟語で翻訳することは不可能であったので、最終的には Baptist の音をそのまま片仮名で「バプテスト」と表記することでほぼ統一された。これは、バプテスト派の本格的な日本伝道開始から 43 年を経てのことであった。

Baptist Church をどのように日本語に訳してきたのか、その変遷を見てきたが、そこにはバプテスト派の伝道方針、神学理解が深く関わっていたことを確認した。これらの苦闘は、現在の我々と無関係なことではない。先人が問い続けた「バプテスト教会とはどのような教会であるのか」との問は、今も我々の間でなければならない。

³⁸ 『教報』第 12 巻第 7 号（明治 40 年 10 月 20 日）では「バプテスト教徒の主義」との題で次のように紹介している。

ウオツチマンの記者は之を左の如く約述せり

- (一) 人の靈魂は直接神と關係するものにして如何なる人間も儀式も禮典も其間に立ち入るを許さず
- (二) 正當なる信仰を活用する信者のみバプテスマを受くべきものとす
- (三) バプテスマは信仰を働かし得る年齢の者のみ受くべきものなれば嬰兒のバプテスマは正當にあらず
- (四) 政教の分離を主張す
- (五) 教會の政治は純然たる自由主義、共和主義なり監督或は祭司の支配を受くべき者に非ず只神のみ支配し給ふなり
- (六) 責任を有する年齢に達せざる嬰兒の救を信ず、バプテスマ或は他の儀式は嬰兒の救に必要なものに非ず

バプテスト教徒の根本的主義は只信仰によりて救を得ることなり其中には人は皆只神に對して責任あるものにして誰も此責任を取り去ること能はざるを含む新約聖書及び初代教會の歴史を研究する時はバプテスマは水の沈なりしことを知る然るに後に至りて嬰兒或は病人等に水を注ぎて沈の代用となすに至れり、そは當時バプテスマは救に必要ななりとの信仰起りたればなり、バプテスト教徒は之を信ぜず、聖書に記され且初め行はれたる水の沈を信ずるなり